

# 教員が授業に学校図書館を活用する力を高めるために

学籍番号 159960  
氏名 小林 洋子  
主指導教員 家近 早苗

## 1. 課題と目的

学校図書館は、思考力・判断力・表現力と情報を適切に取り扱い活用する情報活用力を育む探究的な学習と、各教科の学習で習得したことを活用し自らの学びを深める合科的な学習を展開する場である。T市において学校司書の配置や学校図書館のシステム化等、環境整備を進めてきた。しかし、学校図書館の授業での活用状況に学校間（教員間）に差がみられ、教員の学校図書館を活用する力や経験の差が実践数の差として表れ、このことが児童・生徒の学習経験にも影響するのではないかと推察された。このことを課題と捉え、本研究の目的を、各校での学校図書館の授業活用を促進するために、教員が授業で学校図書館を活用することの意義を理解し、各教科・領域の授業において学校図書館を活用する力を高めることとし実践研究を行った。

## 2. 研究内容

### 2.1 研究Ⅰ 『とよなかスタンダード』の策定と周知

【目的】学校図書館を活用する授業（学習）を通して子どもたちがつける情報活用力を体系的に整理し、小学校共通の学校図書館教育の年間計画例及び授業例を併せた『とよなかスタンダード』を策定する。また、策定した『とよなかスタンダード』を全校に周知する。

【方法】全国学校図書館協議会が制定した「情報・メディアを活用する学び方の指導體表」とT市で使用する教科書、学校図書館活用データベースに登録されている授業事例を参考に年間計画例を作成する。司書教諭、学校司書、指導主事と検討し『とよなかスタンダード』として策定し、教頭研修及び読書振興課発行の通信にて全教員に周知する。

【結果と考察】子どもたちに付けたい情報活用力の項目を、発達段階（学年）と独自に構築した探究学習を進める「とよなかステップ」に沿って分類した指導體系表と、学校図書館を活用した授業を展開できる各教科等の単元を、学年と学習時期（学期）ごとに並べ一覧にした年間計画例及びその具体的な授業事例集を『とよなかスタンダード』として策定した。

各教科・領域の単元学習の中で系統的かつ段階的に子どもたちに情報活用力を育成することが示され、学校図書館の授業活用の有用性を明確にした。また、年間計画例と事例集は、教員が学校図書館を授業活用するイメージが持てるツールとなった。これらの教員への周知を、年度当初の教頭研修と読書振興課が発行している通信にて図ったが、周知の状況は教員全員に周知した学校は全体の15%、一部の教員へ周知した学校が22%で、全教員への周知には至らなかった。

### 2.2 研究Ⅱ 学校図書館の授業活用に向けた新たな研修の導入

【目的】現行の学校図書館教育に関する研修に加え、新たな研修「学校図書館活用研修」を教員研修計画に位置づけ、『とよなかスタンダード』を用いて学校図書館を活用した授業の意義と方法を普及しその効果を検討する。

【方法】学校図書館教育に関する研修を担当する教育センターの指導主事と研修内容及び研修

受講対象者について協議し、受講を希望した教員（学校司書，司書教諭を含む）に対する研修として実施する。

【結果と考察】年間2回の新たな研修として「学校図書館活用研修」を位置づけ，内容は『とよなかスタンダード』の解説とその活用法，授業に学校図書館を活用する意義と実際の授業の進め方を体験するワークショップ型の研修として実施した。教員に向けた研修にも関わらず受講者の多くは学校司書で，教員の参加は少なかった。研修では，学校図書館活用の意義と授業実践の具体例を教員が体験を通して知り，授業実践への意欲を高めるものであったが，受講希望の教員に向けた集合研修であり教員全体への普及には至らなかった。

## 2.3 研究Ⅲ 学校ごとの研修～校内研修～

【目的】各校の校内研修に出向き，その学校の教員すべてを対象に学校図書館を授業に活用する意義と実践方法を普及する。

【方法】夏季校内研修として依頼のあった5校において，学校図書館活用研修の内容に学校のニーズに合わせた内容を加えて研修を実施する。

【結果と考察】5校の全教員に対し研修を実施したことで学校図書館教育に関心の低い教員にも『とよなかスタンダード』と学校図書館の授業活用する意義と有用性を普及し，授業実践への意欲を高める結果となった。実際，学校図書館を授業活用する経験のなかった教員による授業実践につながり，それを契機に学校全体で学校図書館活用促進が図られた。また，学校図書館を活用した授業を行う教員と学習する子どもたちを支える体制として学校司書，司書教諭，学級担任の専門性をどのように活かすかを指導主事（教育委員会）が構築することの必要性が示唆された。

# 3. 総合考察

## 3.1 学校図書館を授業実践に活かす意義と具体的な方法を示す『とよなかスタンダード』の有効性

『とよなかスタンダード』の策定により学校図書館を授業で活用するイメージ化を図り，子どもたちが段階的に情報活用力を身に付ける指導体系を示したことで，学校図書館教育の意義と有用性を明らかにした。教員からの評価も良くその有効性が示されたが，周知の方法に課題が残された。

## 3.2 新たな研修と学校に出向く校内研修の効果と学校図書館教育を支える体制づくり

学校ごとに研修を実施し，学校図書館を授業で活用する意義と具体的な方法を示すことが，教員の学校図書館を授業で活用する力を高めることにつながることを期待できる。また，教員による学校図書館を活用した授業実践の促進のためには，教員の授業と子どもたちの学習活動を支える学校司書，司書教諭，教員（学級担任）の専門性を活かした「チームとしての学校」の中に教育委員会（指導主事）も参画し，その体制づくりを進めていくことの必要性が示唆された。

